

こんな冷や汗もの場面に出くわしたことは
ありませんか？

庶務部国際交流課では、このたび「広島大学
職員のための英会話集」を作成し、全事務職員
に配付することになった。

この会話集は、「初対面のあいさつ」や「電話
での応対」など本学での日常生活で必要な会話
から構成されており、また「大学でよく使う単
語集」などが掲載されている。

A4判・七十頁で千六百部印刷され、三月上
旬には配付される予定。

大学の紹介はビデオで

庶務部国際交流課では、教育研究学内特別経
費（いわゆる学長科研）の交付を受け、企画調
査課や入試課、留学生課と協力しながら、大学
広報用のビデオを作成することになった。

ビデオは、「一般」用（英語・日本語）、「受験
生」用（日本語）、「留学生」用（英語）の三種
四本が、今後約一年半をかけて制作される予定。
制作を委託された「RCC映像」では、「総力
を上げてビデオ作成に取り組み、我が社の代表
作にしたい」と意欲を燃やしている。

銅を含まない新「超伝導体」を 発見―理学部の前野助教ら

高温超伝導物質と全く同じ結晶構造をもちな
がら、銅が含まれていない超伝導物質を前野悦
輝（まえの・よしてる）理学部助教ららが初め
て発見し、英科学誌「ネイチャー」十二月八日
号に発表した。

これまで知られた高温超伝導物質は、全て層
状ペロフスカイトと呼ばれる構造の銅酸化物に
限られており、今回の発見が、高温超伝導のメ
カニズムの解明に大きな手がかりを与えるもの
と注目されている。

超伝導材料は、強力な電磁石や高感度のジョ
セフソン素子などに用いられ、磁気浮上列車、
電力貯蔵、医療機器をはじめ広範な応用が進め
られているが、超低温に保つための冷却システ

ムが必要で、このコストが弱点になっている。
一九八六年に、層状の銅酸化物が絶対温度30
ケルビン（摂氏マイナス二四三度）以上の温度
でも超伝導になることが発見されて以来、これ
までに類似の銅酸化物で数多くの「高温超伝導
物質」が開発され、なかには臨界温度（超伝導
になる温度）が10ケルビン（摂氏マイナス二二
三度）を超えるものも現れた。

しかし、なぜこのような高い温度でも超伝導
になるのが従来の理論では説明できないこと
から、高温超伝導のメカニズムの解明は、固体
物理学で最も重要な課題のひとつとされる。

新「超伝導物質」は、銅を白金族のルテニウ
ムで置き換え、ストロンチウム²⁺、ルテニウム
1、酸素4の比率で結合させたもので、臨界温
度は1ケルビン（摂氏マイナス二七二度）と低
い。

この研究は、理学部の藤田敏三教授のグルー
プで前野助教を中心に大学院生の橋本博明・
吉田宏二・西崎修司君らが、高温超伝導の発見
でノーベル賞を受賞したIBMチューリッヒ研
究所のJ・G・ペドノルツ博士らの協力も得て
進めたもので、実験は主に本学の低温センター
で行われた。前野助教は「この新超伝導体は、
銅酸化物と同じ層状構造をもっており、その特
殊な結晶構造だけでは高温超伝導を引き起こせ
ないことが明らかになった。両者を比較するこ
とで、新たな視点から銅原子の役割を浮き彫り
にしたい」と語っている。

工学部女性グループの スケッチ展、西条で開催



▶展示作品から「俵助（わびすけ）」

三月は別れの季節。その別れの季節に先立っ
て、このたび、「信子とその仲間たち」スケッチ
展」が開催された。

この作品展は、メンバーの一人、島津信子さ
んの定年退官を記念して企画されたもので、東
広島市内の「アートサロン瑠璃」で二月三日か
ら五日まで開催された。

期間中二百八十名が訪れた同展では、メンバ
ーがスケッチした約三十点の「花」の日本画や本
人の作品の鎌倉彫十三点が展示され、訪れた人
の眼を楽しませていた。

今回の作品展について島津さんは、「この会が
発足して二年六か月。このような作品展をして
くださった仲間感謝しております。思いもか
けず大勢の人たちに観ていただいたことはうれ
しく、大学四十年間の勤務で一番のプレゼント
をいただいたと思っております。この機会に、
会の名前を「楽雅喜（らくがき）会」といたし
ました。この会のメンバーは、角谷安枝、太田
啓子、中丸澄子、田中共子、前田香織、景山満
子、松山まり子の面々です。もし興味のある方
は、工学部保健室松山（内線六一九二）までお
電話ください」と語っている。

賀茂台地百景スケッチ画展、 広島市内で開催

本誌の挿し絵などでお馴染みの附属図書館西
条分館職員、景山満子さんの作品展が、三月一
日から広島市内段原の「扇屋菓道館一階ギャラ
リー」（☎〇八二二二五一一〇三三六）で開催
されている。

この画展では、さわやかで清冽な淡彩スケッ
チ画四十五点が展示されており、期間は三月三
十一日まで（第二・四水曜日は定休日）で毎日
午前九時から午後八時まで鑑賞できる。

「消えゆくキャンパス写真 展」開催される

去る二月二十日から、広島信用金庫鷹野橋千
田支店のロビーで、滝本勇紀さん（経済学部三
年）の個展が開催されている。期間は三月十六

日（休）まで。
この個展は「消えゆくキャンパス写真展」と
題され、東千田キャンパスの光と影をモチーフ
にした作品二十三点（モノクロ）が展示されて
いる。会場では、このたびの阪神大震災の義援
金も募集している。



▲展示作品から「夕焼けの理学部校舎」

お断り

26期3号（平成6年9月20日発行）18ページ掲載の写
真「多大犠牲を払った大学紛争―封鎖解除当日の大学
本部（S44・8・12）」は、広島大学前学生生活協同組
合発行の「フェニックス」写真が語る広島大学」から
転載させていただきまし。

訂正とお詫び

前号26期6号36ページ「阪神大震災―広島から救援へ」
の記事中、「医学部附属病院では県立広島病院との緊急
医療チームの編成が整い」とありましたが、医学部附
属病院の単独チームの誤りでした。
同号35ページ「広大病院」「第九回クリスマス会」開催
の写真説明が、「院内学級の児童・生徒による合奏」と
ありましたが、「館内管弦楽団による演奏」の誤りで
した。

同号34ページ「法学部と経済学部の第二部、昼夜開講
制へ移行」の記事中、「東千田町キャンパスの一角を夜
間主コース用地として残していたことになった」（平
成七年七月十二日評議会報告）は、「平成六年七月十
二日評議会報告」の誤りでした。
訂正してお詫びします。